

平成28年度 標準的学力調査の結果

学校支援課

平成29年1月に実施した標準的学力調査（東京書籍版CRT）の結果をお知らせします。
（数値は平均正答率％）

教科	学年	新潟市	全国	全国との差
中学校理科	2年	55.8	55.5	+0.3
中学校英語	2年	58.6	53.2	+5.4

中学校理科

【今年度の結果について】

中学校理科は、全国平均とほぼ同程度だった。種別に見ると「基礎」が全国平均より少し上回り、+0.8ポイントであった。一方で、「活用」は全国平均を下回り、-1.5であった。領別に見ると、生命の領域（動物の世界）が全国平均を+2.9と上回ったが、エネルギーの領域（電流とそのはたらき）が-3.7、粒子の領域（化学変化と原子・分子）が-0.6と下回った。なお、地球の領域は、まだ未履修のため調査対象より除外してある。

2年前の調査と比較し、達成率が46.5ポイントから61.7ポイントに上昇している。授業改善の成果が出てはいるものの、今回の調査で、基礎の定着および活用の力がまだ不十分であり、特にエネルギー領域において課題が明らかになった。学習内容を確実に定着させるため、日々の授業での課題を明らかにし、指導を工夫・改善することが必要である。

◆内容ごとの状況（中学校・理科）

○…全国平均を上回った主な問題

●…全国平均を下回った主な問題

- 水を熱して発生させた水蒸気をさらに熱しても、別の物質にはならないことを理解している。
- 水は化合物、水素と酸素は単体であることを理解している。
- 水の電気分解で陰極側に集まった気体が水素であることがわかり、その調べ方について理解している。
- 石灰水からガラス管をとり出してから火を消し、ピンチコックでゴム管をとめる理由がわかる。
- 酸化銅と炭素の還元の化学反応式を理解している。
- 酸化銅が還元され、炭素が酸化されたことを理解している。
- 加熱前も加熱後も、全体の質量は変化しないことを理解している。
- 銅を酸素中で熱したあとピンチコックをはずしたときに音が出るのは、空気が入ってきたからだということを推測できる。
- アンモニアの気体の性質を理解し、実験方法を修正することができる。
- 周囲から熱をうばう反応を、「吸熱反応」ということを理解している。

- しばらくすると温度が下がらなくなるのは、化学反応が終わったからだということを説明できる。
- 酸化カルシウムと水が混ざると、発熱反応が起きることを理解している。
- 植物の細胞にだけ見られ、動物の細胞には見られない細胞のつくりを理解している。
- からだが1個の細胞からなる生物を、「単細胞生物」ということを理解している。
- 組織が集まって1つの形をもち、特定のはたらきをする部分を、「器官」ということを理解している。
- 脳やせきずいなど多くの神経が集まっている神経系を、「中枢神経」ということを理解している。
- 反射の経路について理解している。
- セキツイ動物を、恒温動物と変温動物に分けることができる。
- 卵から産まれる子の生まれ方を、「卵生」ということを理解している。
- イカのように、外とう膜とよばれる膜をもつなかまを、「軟体動物」ということを理解している。
- 始祖鳥の特徴から、始祖鳥はハチュウ類から鳥類へ進化する途中の生物だと推測できる。
- 同じ実験をくり返し、平均を求める理由がわかる。
- メダカのえらぶたの開閉回数を、グラフに表すことができる。
- 実験の結果から、誤った考察している人を指摘し、修正することができる。
- 回路を回路図に表すことができる。
- 抵抗器の抵抗を求める式を理解している。
- 並列回路に流れる電流と加わる電圧について正しくないものについて考えることができる。
- 電力と電圧から、流れる電流の大きさを求めることができる。
- 照明器具の交換によって節約できる電力量を求めることができる。

【今後の対応について】

- ◎一つ一つの活動の意味について考える活動を意図的に授業に取り入れる。
実験・観察手順について、単に暗記するのではなく、なぜその手順なのかを考える活動を授業で大切にする。
- ◎基礎的事項については、授業で調べ学習や協働学習を取り入れて確実に習得させる。
生徒に知識を伝えるのではなく、生徒自身が自ら知識を獲得するための調べ学習や協働学習を授業で大切にする。
- ◎他教科の内容と関連させて、授業を構成する。
電気の学習などでは、複雑な計算に数学科の内容を用いたり、実生活にかかわって家庭科の内容を確認したりして授業を関連させる。

中学校英語

【今年度の結果について】

新潟市全体の状況は、基礎・活用ともに全国平均を大きく上回っていた。種別に見ると「基礎」が全国平均より+5.1ポイント、「活用」が+5.7であり良好な状況である。領域別では、「聞くこと」の領域で+2.3、「読むこと」の領域で+6.4、「書くこと」の領域で+6.6ポイントと全国を大きく上回っている。観点別でもすべての観点「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解能力」「言語や文化についての知識・理解」で大きく上回っている。昨年まで課題のあった「言語や文化についての知識・理解」に改善が見られた。

全体は大きく上回っているが、小問題別に見ると、「リスニング」の対話内容を聞き取り、適切に応答することに課題が見られた。また「英作文」の対話の流れに合った英文を書くことに課題が見られた。

昨年度と比較して、58校中51の学校で標準スコアが向上している。新潟市が進める授業改革を各学校で着実に実践してき成果である。

◆内容ごとの状況（中学校・英語）

○…目標値を上回った主な問題

●…目標値を下回った主な問題

【聞くこと】

- 絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。（してはいけないこと）
- 絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。（していること）
- 絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。（していることと接続詞）
- 対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。（いつ練習するかたずねられて）
- 対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。（掃除の必要性を確かめられて）
- 対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。（何をしているかたずねられて）
- 英文の要点を聞き取ることができる。（楽しむこと）
- 英文の要点を聞き取ることができる。（母の現在の職業）
- 英文の要点を聞き取ることができる。（兄のお気に入りの話題）
- 対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。

【読むこと】

- 語形・語法を理解することができる。（動名詞）
- 語形・語法を理解することができる。（接続詞 that）
- 語形・語法を理解することができる。（否定の命令文）
- 語形・語法を理解することができる。（名詞的用法の不定詞）
- メールの要点を理解し、相手の質問に適切に応じることができる。
- 英文と資料の情報・条件をもとに、相手の要望に対して適切に応じることができる。
- 対話の流れと表から、適切な教科名を判断することができる。
- 対話の流れと表から、登場人物の適切な発言を判断することができる。
- 代名詞 them の内容を把握することができる。

- 英文の内容を把握することができる。
- 登場人物の気持ちと言いたいことを理解することができる。
- 読み取った内容をふまえて、メールを書くことができる。

【書くこと】

- 単語を正しく書くことができる。(歩く)
- 単語を正しく書くことができる。(図書館)
- 単語を正しく書くことができる。(疲れた)
- 単語を正しく書くことができる。(再び)
- 英文を正しい語順で書くことができる。(be going to ~の否定文)
- 英文を正しい語順で書くことができる。(過去進行形の疑問文)
- 英文を正しい語順で書くことができる。(目的語が2つある文)
- 英文を正しい語順で書くことができる。(形容詞的用法の不定詞)
- 対話の流れに合った英文を書くことができる。(May[Can] I ~ ?を使ってたずねる)
- 対話の流れに合った英文を書くことができる。(場所をたずねる)
- 自分が住んでいるところにあるものについて、まとまった内容で説明する文を書き表すことができる。

【今後の対応について】

- ◎まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動の充実
対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題で、目標値を下回っている。語彙単位の断片的な理解ではなく、まとまった英文全体の意味を理解し、必要な情報を聞き取る力が必要である。授業の中で、聞くポイントを事前に示したり、聞く場面や状況を明確にしたりするなど、目的をもって聞く活動を行うことが大切である。
また、オーラルイントロダクションで、教師が本文の内容に即した絵を提示し、生徒と英語でやりとりしながら内容を理解する活動を工夫するなど、教師の発話や子ども同士の発話の量を確保することが、聞く力を付けることにつながる。
- ◎文法を正しく理解し、活用できる授業づくり
文法の理解が不十分のために目標値に達しないことが考えられる。文法事項については、適切な場面設定を工夫したり、視覚でとらえさせる板書を工夫したりすることが大切である。理解した文法を用いて、生徒の身近な題材をもとに、ペア・ワークやグループ・ワークの中でより多くアウトプットする活動を行うことで定着が図られる。
- ◎文と文のつながりに注意して文章を書く活動の充実
対話の流れに合った英文を書く問題で、目標値を下回っている。対話文の流れを考え、文脈に沿った内容を書く指導の工夫を行うことが必要である。生徒の関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、段階的に文章を書く機会を増やすことが大切である。
また、基本的な単語は「音」「綴り」「意味」を確実に身に付けさせたい。

